

日本人英語学習者の動機付け JGSS-2003 のデータ分析を通して

小磯 かをる

大阪商業大学総合経営学部

Motivation of Japanese English learners

From the data of JGSS-2003

Kaoru KOISO

By analyzing the data of JGSS-2003 with χ^2 test and logistic regressions, this study examines motivation of Japanese English learners. The results show the followings: (1) those who had previously studied English besides school education tend to continue studying English; (2) motivational orientations which have both “instrumental motivation” and “intrinsic motivation” such as ‘I study English to broaden my view’ or ‘I study English for oversea travels.’ are highly chosen; (3) motivational orientations differ according to their sex, age and previous English learning experience besides school education; (4) to be a positive English learner, one needs both rigid instrumental motivation such as ‘I enjoy studying English’ and intrinsic motivation such as ‘Studying English is useful for my job’.

Key words: JGSS, motivation, English education

本稿では、JGSS-2003 のデータを用いて、クロス表についての²検定とロジスティック回帰分析で、日本における英語学習者の動機付けの特徴を調査した。分析の結果以下のことが判明した。(1)以前に学習経験のあるものは今後学習する可能性が高い。(2)英語学習の理由として、「内的動機付け」と「道具的動機付け」の双方の側面をもっている動機付け(「視野を広めたいから」と「海外旅行のため」)の選択率が高い。(3)英語学習の動機付けは性別や年齢や以前の学習経験の有無によって異なる。(4)英語学習を持続し、積極的に学習に駆り立てるには、「内的動機付け」と「道具的動機付け」の双方の側面をもっている動機付けより、「英語を学習するのが楽しいから」といった判然たる「内的動機付け」と、「工作上役立つから」といった判然たる「道具的動機付け」の効果が大きい。

キーワード：JGSS、動機付け、英語教育

1. はじめに

近年英語でコミュニケーションを図る重要性がますます高まり、文部科学省が2002年に発表した「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」と2003年「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」のなかでも、これからの社会における英語力の必要性が強調されている。また、読売新聞社が全国有権者3000人に実施した平成12年度の全国世論調査でも、8割強の人が「英語がもっとできたらいい」と答えている。しかしながら、実際に学校の授業以外で英語を学ぶ人の数はまだ少数派であり、語学学校等に通い始めた多くの人が途中で挫折している⁽¹⁾。その理由はさまざまであるが、英語学習に対する動機付けが低下したことが、その主な要因のひとつだと考えられる。

英語学習における動機付けの研究は、主に大学生や中学・高校生を対象に数多く行われてきた。しかしながら社会人を対象とした大掛かりな調査は、まだ日本では実施されていない。今回、JGSS-2003において英語学習に対する動機付けの設問が新たに設けられた。動機付けの定義は学者によって様々であり、学習の理由＝動機付けとは一概に定義できないが、少なくとも、学習の理由が動機付けの主な要因であることから、本稿では、英語学習の理由と英語学習の動機付けを同様に扱った。

JGSS-2003の母集団は、日本全国に居住する満20歳～89歳の男女である。層化2段無作為抽出法により全国の489地点において、7,200人を対象として、2003年10月末から11月末にかけて調査を実施した。なお、JGSSでは調査の一部を面接調査で行い、残りの部分を留置調査で行っているが、特に今回の調査では、留置調査の部分について、内容の異なる2種類の調査票(A票とB票)を用意し、半数ずつランダムに配布した。面接調査の部分は全ての対象者に共通である。本研究で分析する設問は、留置調査票A票に組み込まれたものである。留置調査票がA票の対象者については、1,957人から有効な回答を得ており、回収率55.0%である。

JGSS-2003では、学校教育以外での英語の学習経験の有無を尋ね、続いて、「あなたは今後、英語を学習するつもりですか。」と尋ねている。今後英語を学習するつもり(「積極的に学習するつもり」、「機会があれば学習したい」、「仕方なく学習する」)と回答した場合の付加質問として、英語学習の理由を尋ねている(複数回答)。「あなたは今後、英語を学習するつもりですか。」の質問に対して、有効回答者1957人のうち、「積極的に学習するつもり」は2.8%、「機会があれば学習したい」が29.6%、「仕方なく学習する」が1.6%、「学習するつもりはない」が68.6%である。「積極的に学習するつもり」、「機会があれば学習したい」、「仕方なく学習する」と回答したものの610人(男性236人：女性374人)に対して(表1参照)、「英語学習の理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。」と尋ねている。項目「その他」を含む選択項目14のうち選んだ人が10人未満の項目(「卒業・進級に必要だから」：9人、「昇進・昇格に必要だから」：5人)と「その他」は以後の分析から除外した。本稿では、最初に性別・年齢別に動機付けの特徴を分析し、続いて学校以外での英語の学習経験の有無と動機付けの関係を調べ、最後にどのような動機付けが学習

の強さを結びつくのか分析した。

表1 英語の学習意欲と性別のクロス表

	男	女	合計
学習するつもりはない	632	710	1342
仕方なく学習する	19	12	31
機会があれば学習したい	193	331	524
積極的に学習するつもり	24	31	55
無回答	1	4	5
合計	869	1088	1957

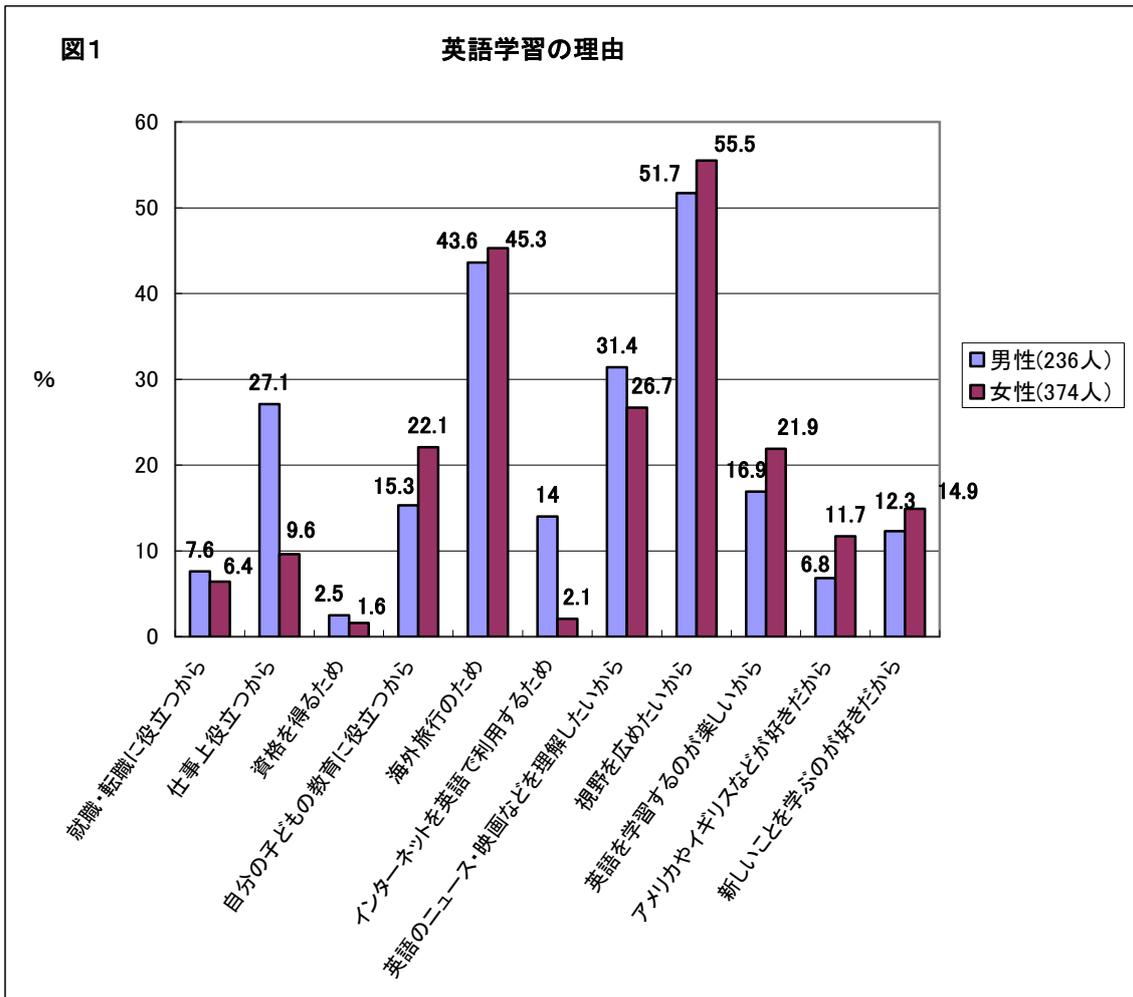
2. 日本人の英語学習の理由

2.1 男女差

英語学習の理由は男女によってどのような差があるのかを分析した。図1は英語学習の理由を男女別に示したものである。グラフの左の3項目「就職・転職に役立つから」、「仕事上役立つから」、「資格を得るため」は、報酬を求めて学習するという典型的な「道具的動機付け」であり、右の3項目「英語を学習するのが楽しいから」、「アメリカやイギリスなどが好きだから」、「新しいことを学ぶのが好きだから」は、学習者の中に学習活動の要因が備わっている「内的動機付け」である⁽²⁾。またこれまでの研究にはなかったこの調査独自の変数「自分の子供の教育に役立つから」は報酬を求めるという観点から「道具的動機付け」として捉えられる。真ん中の4項目「海外旅行のため」、「インターネットを英語で利用するため」、「英語のニュース・映画などを理解したいから」、「視野を広めたいから」は、学習活動そのものが学習の理由ではなく、外的な要因が基礎となっている観点からは「道具的動機付け」に近く、自分の楽しみのためという観点からは「内的動機付け」に近いと思われる。

図1を一見すると明らかなように、英語学習の理由として、「道具的動機付け」と「内的動機付け」の両方の側面を持っている項目の選択率が高い。最も選択率が高い項目は、「視野を広めたいから」であり、男性・女性とも50%を越している（男性 51.7%、女性 55.5%）。つづいて「海外旅行のため」（男性 43.6%、女性 45.3%）、「英語のニュース・映画などを理解したいから」（男性 31.4%、女性 26.7%）と続く。反対に、「資格を得るため」（男性 2.5%、女性 1.6%）、「就職・転職に役立つから」（男性 7.6%、女性 6.4%）は選択率が男性・女性とも10%に満たない。これらの項目のうち、男女間に差がみられるのは、「仕事上役立つから」（男性 27.1% > 女性 9.6%; $p < .01$ ）と「インターネットを英語で利用するから」（男性 14.0% > 女性 2.1%; $p < .01$ ）である。これは、仕事に関しては、回答者全体でみると男性の70.7%が仕事に従事しているのに対し、女性の就労率は47.9%であること、また男性の週平均就労時間が、44.2時間であるのに対し、女性の週平均就労時間は33.7時間であること、インターネットに関しては、職場でパソコ

ンを利用したり（男性 33.3%、女性 15.3%）、または自宅でパソコンを利用したり（男性 34.9%、女性 25.2%）、インターネットによるショッピングやインターネットバンキング（男性 11.4%、女性 8.6%）を利用する割合の男女差が影響していると思われる。上記以外で、男女間において差がある項目は「アメリカやイギリスが好きだから」（男性 6.8% < 女性 11.7%； $p < .01$ ）、「自分の子どもの教育に役立つから」（男性 15.3% < 女性 22.1%； $p < .05$ ）であり、どちらも女性の選択率が高い。「今後英語を学習するつもり」と回答した既婚の20代から40代の女性(175人)に限ると英語学習の理由として、38.9%が「自分の子どもの教育に役立つから」を選択している。



2.2 年代別

英語の学習理由は回答者の年齢によっても差があると思われる。そこで、回答者の年齢を、20歳～39歳（250人）、40歳～59歳（248人）、60歳以上（113人）の3グループに分け、3つのグループで英語学習の理由の選択率の違いについて検定を行った。表2はその結果をまとめたものである。

表2 年齢の違いによる英語学習理由の選択率 (%)

	20歳-39歳 (250人)	40歳-59歳 (248人)	60歳以上 (113人)	² 検定の結果
就職・転職に役立つから	11.1	5.2	0	***
仕事上役立つから	20	16.9	7.1	**
資格を得るため	3.6	0.8	0.9	
自分の子どもの教育に役立つから	32.4	14.1	2.7	***
海外旅行のため	42.4	46.4	46	
インターネットを英語で利用のため	7.2	5.6	8	
ニュース・映画などを理解したいから	30.8	27.8	24.8	
視野を広めるため	56.8	52	51.8	
英語を学習するのが楽しいから	20.8	18.1	22.3	
英米が好きだから	10.8	10.5	6.3	
新しいことを学ぶのが好きだから	12	14.1	17.9	

*** p<.001 ** p<.01 * p<.05 p<.1

表2に示されたように、「自分の子どもの教育に役立つから」、「就職・転職に役立つから」、「仕事上役立つから」の項目で年齢別に有意の差が見られた。これらの項目は年齢が上がるほど、選択率は減少している。最初の2項目に関しては、就学期の子どもを持つ世代が主に20代・30代であること、就職・転職を考えるのも若い世代のほうが多いということから当然の結果だと考えられ、「仕事上役立つから」は、若い世代の方が、就職・転職や昇進、資格を見据えて積極的に英語を学習しようと考えているのではないかと思われる。これは、「仕事上役立つから」という項目を選んだ者は「就職・転職に役立つから」という項目や、回答数が少ないので上記の分析から除外した項目「昇進に役立つから」という項目を選ぶ傾向が認められることからある程度説明できると思われる。また、回答数は少ないが、学生に関して言えば今後英語を学習するつもりと答えた者(10人)のうち40%がその理由として「就職・転職に役立つから」を挙げている。興味深いのは、これらの3項目のいずれもが前述したいわゆる「道具的動機付け」であるということである。一方、「英語の学習が楽しいから」のように、学習そのものが楽しいから学習するといった「内的動機付け」に関しては、年齢によって有意な差はみられない。「新しいことを学ぶのが好きだから」は、年齢が上がるにつれ選択率が増える傾向がみられ、60歳以上の年代の学習に対する積極的な態度がうかがわれる。

2.3 英語の学習経験と動機付け

JGSS-2003では、学校教育以外での英語の学習経験の有無について、「あなたは学校での授業以外に、英語を学習したことがありますか。テレビ・ラジオの英語番組、英会話教室・サークルなどを含みます。」と尋ねている。有効回答1957の内2.4%が「現在学習している」

と答え、「以前は学習していたが現在はしていない」と答えたのは 18.5%、「学習したことがない」と回答したのは 78.8%であった⁽³⁾。

図2は「あなたは今後、英語を学習するつもりですか。」の質問に対する回答（「積極的に学習するつもり」、「機会があれば学習したい」、「仕方なく学習する」、「学習するつもりはない」）と以前の学習経験との関係を示したものである。

図2 学校外の英語学習経験と今後の英語学習意欲（無回答を除く）

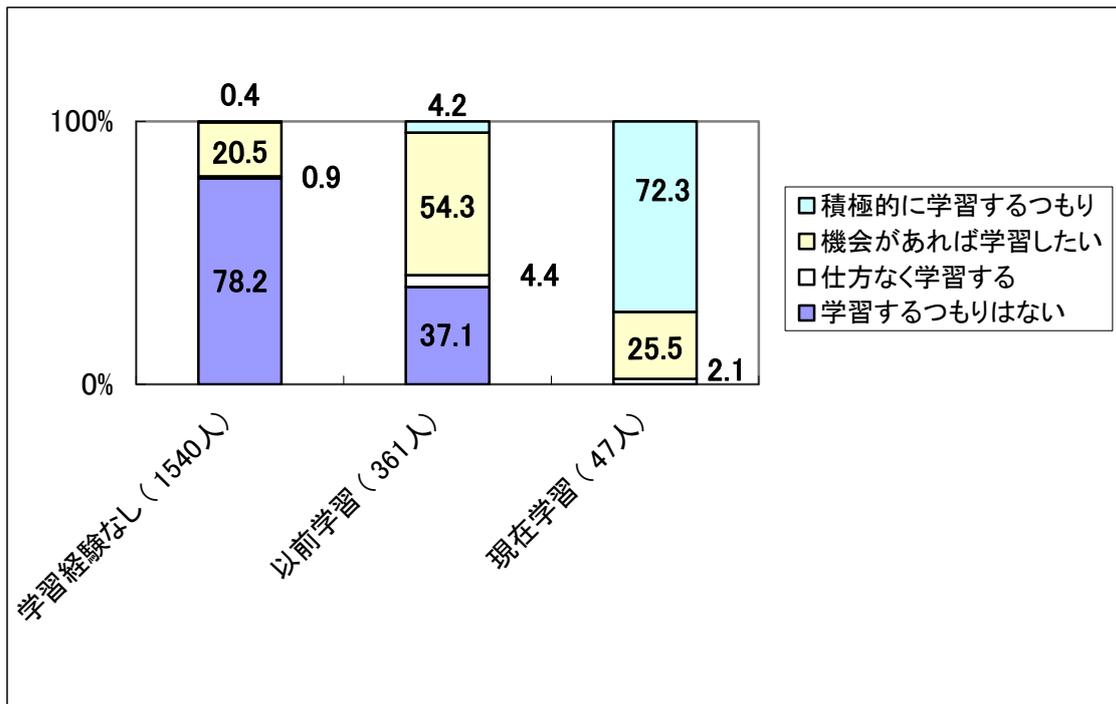


図2からも明らかなように、以前の学習経験と今後の学習意欲との間には強い関連が認められ、学習経験のない回答者の 78.2% が「学習するつもりはない」と回答する一方、現在学習している回答者全員が今後英語を学習すると回答し、その内の 72.3% がこれからも「積極的に学習する」を選択している。また「以前学習していたが現在はしていない」と回答した者の 62.9% が今後英語を学習するつもり（「積極的に学習するつもり」、「機会があれば学習したい」、「仕方なく学習する」）と回答している。

「現在学習している」と回答した者で、今後英語を学習するつもり（「積極的に学習するつもり」、「機会があれば学習したい」、「仕方なく学習する」）と回答したグループをAグループ(47人：男性19人・女性28人)とし、「以前学習していたが現在はしていない」が今後学習するつもり（「積極的に学習するつもり」、「機会があれば学習したい」、「仕方なく学習する」）だと回答したグループをBグループ(227人：男性92人・女性135人)とし、今まで「学習したことはない」が今後学習するつもり（「積極的に学習するつもり」、「機会があれば学習したい」、「仕方なく学習する」）と回答したグループをCグループ(335人：男性

124人・女性211人)とした。これらの3つのグループの英語学習理由の選択比率を表3に示した。

表3 英語学習経験の違いによる英語学習理由の選択率 (%)

	A (47人) 現在学習	B (228人) 過去学習	C (335人) 学習経験無	² 検定の結果
就職・転職に役立つから	8.5	9.2	5.1	
仕事上役立つから	34	16.2	13.7	**
資格を得るため	4.3	2.2	1.5	
自分の子どもの教育に役立つから	10.6	21.5	19.4	
海外旅行のため	44.7	50	41.2	
インターネットを英語で利用のため	8.5	8.8	5.1	
ニュース・映画などを理解したいから	57.4	29.4	23.9	***
視野を広めるため	59.6	51.8	54.6	
英語を学習するのが楽しいから	51.1	29.4	9.3	***
英米が好きだから	14.9	14.5	6	
新しいことを学ぶのが好きだから	36.2	16.2	9.3	***

*** p<.001 ** p<.01 * p<.05

「視野を広めたいから」と「海外旅行のため」に英語を学習するという理由は、これまでの学習経験とは関係なく、どのグループでも共通して高い。「英語を学習するのが楽しいから」と「新しいことを学ぶのが好きだから」の項目では3つのグループ間の差が認められ、どちらの場合もグループA>グループB>グループCの順で選択率が高い。一方、「仕事上役立つから」と「英語のニュース・映画などを理解したいから」については、グループAとグループBの間に差が認められ、どちらの場合もグループAの選択率が高い。学習を中断することなく継続しているグループは、仕事やニュースなど実用的な観点から学習している者が他のグループに比較して多いことがわかる。つまり、学習を継続するにはある程度実用的な側面が必要なのではないかと思われる。一方以前は学習していたが現在はしていないグループは「仕事上役立つから」というよりも「英語を学習するのが楽しいから」と「新しいことを学ぶのが好きだから」という理由の選択率が高い。

3. 学習意欲の強さと英語学習理由のロジスティック回帰分析

前節で英語学習経験の有無と性別そして年齢別の英語学習理由を論じてきたが、積極的に学習する人とそうでない人(「仕方なく学習する人」+「機会があれば学習したい人」とを分ける動機付けは何かを明らかにするために、「積極的に学習する」と回答したグループを1とし、「仕方なく学習する」あるいは、「機会があれば学習したい」と回答したグループを0とした変数を従属変数に、英語学習理由の各変数を(該当する=1、該当しない=0)のダミー変数の独立変数として、男女別と年齢層別に2項ロジスティック回帰分析を行

った。また、いままで分析から除外していた「卒業・進級に必要だから」、「昇進・昇格に必要だから」と「その他」も共変数として、強制投入法により投入した。

学習意欲の強さを予測するものは性別によって異なると思われるので、まず男女別にロジスティック解析を行った。その結果を表4に示す。

表4 男女別ロジスティック解析

	男性		女性	
	B	オッズ比	B	オッズ比
就職・転職	-19.36	0	-0.265	0.767
工作上役立つ	1.967	7.152 **	2.521	12.437 ***
資格を得る	0.619	1.857	1.935	6.921
子供の教育	-0.967	0.38	-1.761	0.172 *
海外旅行	0.326	1.385	0.226	1.265
インターネット	0.563	1.756	0.539	1.715
ニュース・映画	1.6	4.953 **	0.968	2.381
視野を広める	-0.687	0.503	0.3	1.35
英語学習楽しい	1.767	5.852 **	2.405	11.081 ***
英米が好き	0.666	1.947	-0.114	0.892
学習が好き	1.421	4.14 *	1.078	2.939 *
卒業・進級の為	2.453	11.619	-1.106	0.331
昇進・昇格	-18.306	0	-19.472	0
その他	2.214	9.154 *	2.632	13.899 ***

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$

「工作上役立つから」、「英語を学習するのが楽しいから」、「新しいことを学習するのが好きだから」、「その他」が男女双方の積極的学習を有意に予測している一方、「英語のニュース・映画などを理解したいから」は男性の積極的学習意欲のみ予測しており、「自分の子どもの教育に役立つから」は女性の積極的学習意欲をマイナスに予測している。つまり、子どもの教育のために英語を学習しようという女性は、「消極的学習者」であり、自ら積極的に学習行動を起こそうとはしない傾向が見られる。これは、子育てに伴う時間的束縛や経済的負担も影響していると思われる。また「工作上役立つから」、「英語を学習するのが楽しいから」、「その他」は男性よりも女性の学習意欲の予測に、より強い効果がある。「その他」の回答は35ある。その他について具体的に記述してもらった内容を見ると、「外国人とコミュニケーションをとるため」に置き換えられる回答が過半数近い17含まれておりその内14が女性の回答である。「その他」を選択して具体的に記述をするということはそれだけ学習意欲が強いという傾向を示唆しており、女性は男性に比べて、英語を楽しく学習し、外国人とコミュニケーションを積極的にとり、また英語を仕事にも役立てたいと思っている傾向が強いと言えるのではないと思われる。

次に、年齢別ロジスティック解析を行った。表5はその結果である。年代別では、20歳

- 39歳では「仕事上役立つから」、「英語を学習するのが楽しいから」、「その他」が、40歳 - 59歳では、「仕事上役立つから」、「英語を学習するのが楽しいから」、「新しいことを学ぶのが好きだから」、「英語のニュース・映画などを理解したいから」、「その他」が、60歳以上では「英語を学習するのが楽しいから」、「英語のニュース・映画などを理解したいから」が5%水準で有意な効果を持っていた。「インターネットを英語で利用するため」は40 - 59歳と60歳以上で有意な傾向が認められた。「自分の子どもの教育に役立つから」は40歳 - 59歳の回答者の学習意欲をマイナスに予測していた。

表5 ロジスティック回帰分析（年代別）

	20歳-39歳		40歳-59歳		60歳以上	
	B	オッズ比	B	オッズ比	B	オッズ比
就職・転職	-1.833	0.16	-0.313	0.731		
仕事上役立つ	1.954	7.54 **	2.756	15.731 ***	2.557	12.9
資格を得る	0.528	1.696	3.519	33.765 △	3.259	26.034
子供の教育	-1.245	0.288	-1.576	0.207 *	-17.427	0
海外旅行	0.117	1.124	-0.103	0.902	1.604	4.974
インターネット	-0.869	0.419	1.747	5.739 △	2.6	13.458 △
ニュース・映画	1.016	2.762	1.874	6.513 **	2.485	12.003 *
視野を広める	0.3567	1.428	-0.674	0.51	0.002	1.002
英語学習楽しい	2.659	14.286 ***	2.028	7.6 **	3.731	41.732 **
英米が好き	0.208	1.231	1.081	2.948	-3.305	0.037
学習が好き	0.67	1.955	2.432	11.394 ***	-8.62	0.422
卒業・進級の為	1.397	4.041				
昇進・昇格	-18.399	0	-18.876	0		
その他	2.214	9.154 ***	2.819	16.753 **	2.578	13.171

*** p<.001 ** p<.01 * p<.05 p<.1

すべての年齢層において有意な効果を持っていたのは、「英語を学習するのが楽しいから」だけであり、英語学習の楽しさはすべての年齢層において英語の学習意欲の原動力のひとつになっている。また「仕事上役立つから」と「その他」は20歳 - 39歳と40歳 - 59歳の英語学習意欲を予測している。「その他」の内「外国人とコミュニケーションをとるため」に置き換えられる回答17の内15が20歳 - 39歳の若年層・40歳 - 59歳の中年層からの回答であることから、若年層を学習に積極的に駆り立てるのは、英語学習の楽しさと仕事のため、そして外国人とのコミュニケーションをとるためと言えるのではないか。中年層については上記の項目に加えて「ニュース・映画を英語で理解したいから」と「新しいことを学ぶのが好きだから」の効果が有意であった。また、「インターネットを英語で利用するため」と「資格を得るため」も有意性が低いながらもある程度中年層の学習意欲の予測効果を持っていた。

反対に、「自分の子どもの教育に役立つから」は女性の学習意欲と同様に、中年層の学習意

欲もマイナスに予測していた。このように、他の年齢層に比べて中年層では多くの英語学習理由が英語学習意欲を予測しており、仕事と個人の楽しみ、家庭といったいろいろな側面からの動機付けが中年層の学習意欲を促進したり、抑制したりしている。60歳以上の高齢者層に関しては、「英語を学習するのが楽しいから」に加えて、「ニュース・映画を英語で理解したいから」と「インターネットを英語で利用するため」の項目が英語学習意欲を予測している。積極的に英語を学習しようとしている60歳以上の回答者は英語だけでなくインターネットや映画・ニュースといったことにも関心を寄せ、知的好奇心が盛んな回答者が多いと思われる。

また、年代別においても男女別においても、回答度数が一番高かった「視野を広めるため」と「海外旅行のため」は、ロジスティック回帰分析の結果では、積極的に学習を促す動機付けとしては効果が認められなかった。

5. まとめ

高校生・大学生を対象とした多くの英語学習の動機付けに関する調査からは、成績や就職のために学習するといった「道具的動機付け」、学習が楽しいからといった「内的動機付け」が検出され、学習意欲と強い関係があることが確認されている。今回の成人を対象とした調査においては、英語学習の理由としては、どの世代においても「視野を広めるため」と「海外旅行のため」の回答率が最も高かった。この2つの動機付けは「道具的動機付け」と「内的動機付け」の両方の要素を兼ね備え、いわば、双方の間に位置するものだと捉えられる。このような「内的動機付け」と「道具的動機付け」両方の側面を持った動機付けは、学習を始めるきっかけとしては強い影響力を持っている。しかしながら、ロジスティック回帰分析によって、実際に積極的に学習行動を起こすには、「英語を学習するのが楽しいから」という典型的な「内的動機付け」と「仕事上役立つから」という典型的な「道具的動機付け」が影響力を持っていることが分かった。言い換えれば、「視野を広めるため」とか「海外旅行のため」といった「内的動機付け」にも「道具的動機付け」にも属さない、ある意味曖昧な動機付けはその曖昧さゆえに入り口が広く、学習のきっかけになりやすいが、英語の学習活動を維持するためには、「英語を学習するのが楽しいから」や「新しいことを学習するのが好きだから」のような判然とした「内的動機付け」と「仕事上役立つから」というような判然とした「道具的動機付け」の2つの側面が不可欠であるということである。つまり「楽しさ」と「実用性」が英語学習のキーワードになるのだと思われる。多くの人が英語の学習を始め、多くの人が途中で挫折している。やめた理由は個々さまざまであろうが、今回の調査からすると、学習の動機付けとして「楽しさ」と「実用性」のどちらかの局面が欠けていたのではないかと思われる。

学習における動機付けは授業で英語を強制的に学ばされる学生・生徒にとっても大きな意味を持つものであるが、特に、基本的に学習するか否かを自己の意思で決定する成人の学習者にとってはより大きな意味を持つ。「はじめに」で述べたように成人の80%が英語を使えるようになりたいと思っている。成人だけではなく、平成3年の文部科学省の「教育

の国際交流に関する実態調査」においても小学生から高校生までの児童・生徒の91.4%が英語を話せるようになりたいと回答している。それらの潜在的な英語学習の要求を汲み取り、英語学習を定着させるためには、「楽しさ」と「実用性」という2つの側面が欠かせない。「実用性」は年代・性別により異なるであろうし、学習が進むにつれて、変化して行くであろうが、学習の「楽しさ」とともに、学習者の「実用性」にどのように応えるかが、これからの英語教育、特に成人を対象とする英語教育にとって非常に重要になってくると思われる。

本稿は、平成15年度大阪商業大学研究奨励助成費の補助を受けている。

[Acknowledgement]

日本版General Social Surveys (JGSS) は、大阪商業大学比較地域研究所が、文部科学省から学術フロンティア推進拠点としての指定を受けて(1999-2003年度)、東京大学社会科学研究所と共同で実施している研究プロジェクトである(研究代表:谷岡一郎・仁田道夫、代表幹事:佐藤博樹・岩井紀子、事務局長:大澤美苗)。東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターSSJデータアーカイブがデータの作成と配布を行っている。

[注]

- (1) 平成15年度の朝日新聞の調査によると、語学学校やサークルに通ったことがあると回答した人の81%が通うことを途中でやめたと答えている。
- (2) 言語学習における動機付けは社会言語学者のGardner等が提唱した「統合的動機付け」と「道具的動機付け」に分類するのが主流であったが、ターゲット言語との接触が少ないFLL(foreign language learning)の環境においては「統合的動機付け」のかわりに、心理言語学者等が提唱した「内的動機付け」が使われるようになった。本調査においても因子分析の結果「内的動機付け」と「道具的動機付け」が独立した因子として抽出された。英語学習理由の11項目「就職・転職に役立つから」「仕事上役立つから」「資格を得るため」「英語を学習するのが楽しいから」「アメリカやイギリスなどが好きだから」「視野を広めたいから」「新しいことを学ぶのが好きだから」「海外旅行のため」「自分の子どもの教育に役立つから」「インターネットを英語で利用するため」「英語のニュース・映画などを理解したいから」を主成分分析でバリマックス回転で因子分析した結果、第一主成分では「道具的動機付け」に関する項目である「就職・転職に役立つから」「仕事上役立つから」「資格を得るため」の3変数の因子負荷量が、第二主成分では「内的動機付け」である「英語を学習するのが楽しいから」「アメリカやイギリスなどが好きだから」「新しいことを学ぶのが好きだから」の3変数の因子負荷量が高いという結果を得た。つまり、JGSS-2002の調査においても「道具的動機付け」と「内的動機付け」がそれぞれ独立した成分として現れたと言うことである。回転後の成分行列を下に示す。

回転後の成分行列(a)

	成分				
	1	2	3	4	5
英語学習の理由：仕事	0.702	-0.139	0.154	-0.178	-0.097
英語学習の理由：就職・転職	0.653	0.184	-0.014	0.066	0.044
英語学習の理由：資格	0.609	-0.009	-0.077	0.154	-0.064
英語学習の理由：楽しい	0.040	0.708	0.125	-0.101	-0.004
英語学習の理由：米英が好き	0.049	0.603	-0.083	0.122	0.407
英語学習の理由：学習が好き	-0.047	0.526	0.003	0.106	-0.363
英語学習の理由：インターネット	-0.046	-0.124	0.844	0.048	0.033
英語学習の理由：ニュース・映画	0.090	0.360	0.625	0.016	0.068
英語学習の理由：子どもの教育	0.208	-0.115	-0.026	0.748	0.227
英語学習の理由：視野を広めたい	-0.114	0.167	0.118	0.686	-0.321
英語学習の理由：海外旅行	-0.140	0.022	0.110	-0.009	0.803

因子抽出法：主成分分析

- (3) 学校教育外での学習経験の有無についてはJGSS-2002でも尋ねている。2002年のデータに関する杉田の分析によると(杉田2004)、男性の62.3%、女性の63.6%が英語の学習経験や英語に接した経験がないとしている。学習経験がないとする2003年度の回答は78.8%であるが、これは、JGSS-2002では、学校以外の英語の学習経験のなかに、「海外旅行」や「外国人の友人との付き合い」等も含めており、JGSS-2003の質問項目より、英語学習の幅を広く取っているためだと考えられる。JGSS-2002では「英語について、次のような学習・経験をしたことがありますか。あてはまるものすべてにをつけてください。」という設問に対して、「英会話学校や文化教室(カルチャーセンター)」「学校・地域・職場などの英会話サークル」「テレビやラジオの英語教育番組やニュース」「英語教材(テープ・ビデオ・CDなど)を使って自分で学習」「社内研修(国内で実施)」「海外旅行」「海外留学や海外研修」「海外での勤務や居住」「外国人の友人や知人との付き合い」の10項目が選択肢として与えられている。

[参考文献]

- Clement, R., Dörnyei, Z. & Noels, K. (1994). Motivation, self-confidence, and group cohesion in the foreign language classroom. *Language Learning*, p.44.
- Clement, R. & Kruidenier, B.G. (1983). Orientations in second language acquisition: The effects of ethnicity, milieu, and target language on their emergence. *Language Learning*, p.33.
- Crookes, G. & Schmidt, R. (1991). Motivation: Reopening the research agenda. *Language Learning*, p.41.

Dörnyei, Z. (1990). Conceptualizing motivation in foreign-language learning. *Language Learning*. p.40.

Oxford, R. (1999). *Motivation: Pathways to The New Century*, University of Hawaii Press.

朝日新聞社, 2003.9.13, 『外国語 できるほうがいいけれど』.

読売新聞社, 2000, 『読売全国世論調査』.

文部省, 1991, 『教育の国際交流に関する実態調査』.

杉田陽出, 2004, 「英語の学習経験が日本人の英会話力に及ぼす効果 : JGSS-2002 のデータから」
『日本版 General Social Surveys 研究論文集 (3)』東京大学社会科学研究所.

渡辺洋子, 2004, 『生涯学習時代の成人教育学』明石ライブラリー.